

朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故第3回調査委員会 委員長記者会見要旨

平成15年9月13日

20:50 ~ 21:30

1 委員長会見要旨

本日は新潟県建築設計協同組合などの設計・施工管理者、施工者の第一建設工業(株)、(株)福田組から事情聴取を行った。

第一建設工業(株)のジャッキダウンの不具合(過大なたわみ)について(説明)もともとの原因はまだわかっていない。

今度施工過程をシュミレーションで再現し、破壊のメカニズムを次回以降明らかにして行きたい。

2 質疑

Q 床のたわみと落下の関連についてはどうか。

A どこかに思ったより大きな応力が作用した。シュミレーションで明らかにして行きたい。

Q たわみの原因は誰にあるか。

A 誰というよりは、意思の疎通が足りなかったと考える。

Q ジャッキダウン後に、どこを補修したか。

A 桁行鉄骨をサッシが入るように切って縮めたりした。

Q 普通の公共工事より、より意思の疎通が必要な工事であったか。

A そう思う。

Q 事故原因について、業者はどう見ているか。

A 今回そこまで言及していない。

Q 新潟県建築設計協同組合で今回出席した方は。

A 新潟県建築設計協同組合は5人。うち(有)福地建築設計事務所が3人。

(株)榎総合計画事務所は2人。

(株)構造設計集団SDGは2人。

Q 構造は、実際にはどこが設計したのか

A 今回は構造計算について主に聞いたので、SDGが主に答えた。

Q 斜材ロッドの補強が与えた影響についてはどうか。

A 設計としては雪荷重により、多少圧縮応力が部材に発生するととの計算結果から行ったことらしいが、個人的には、その効果には疑問があり、あっても無くても今回

の事故には影響を与えなかったと考える。

Q ジャッキダウン時のたわみが原因と考えるか。

A とりあえず、今はそれが一番大きな原因だろうと思う。

Q 大丈夫と思って、ジャッキダウンを行ったのは。

A 施工会社。

Q 予定よりどのくらいたわんだのか。

A 予定の80mmに対し100mm程度。

Q たわみの原因は。

A まだ良くわかっていない。

たわみの影響でひびが入った。ただし鉄筋コンクリートの場合、引っ張り方向にひびが入っても鉄筋が引っ張りを受けるので、そのひび割れが落下に影響するとは思わない。

設計思想もひびは多少入っても良いとのことだった。

Q ジャッキダウン時に施工管理の立会いはあったか。

A ない。

Q 設計時の構造計算に間違いはないか。

A 特に無いと思う。余裕も十分あり、検証すべき荷重モードも全てチェックしてある。

Q そのとき関係者にジャッキダウンの失敗が落下につながるとの認識はあったか。

A 無かったと思う。

Q シミュレーションとは何か。

A 構造解析モデルを作り、それにさまざまな荷重を適用して、今回の事故にもっとも近い状況を見つけること。解析する業者も決まっていて、今回の委員会にも出席している。シミュレーションの結果は、11月初めくらいにはおおよそ出るのではないかと考えている。

Q 次回の予定は。

A 21日(日)に行う。崩壊に至るモードをいくつかあげて、シミュレーションの打ち合せを行う。

Q ジャッキダウンの手順はどのように確認したのか。

A (事務局) 施工計画書で確認した。

Q 2回目のジャッキダウン時に意思の疎通はあったのか。

A 必要に応じてやっていた。

(以上)